

令和元年度

事業所名： グループホーム おおたに 1丁目

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに 1丁目		
所在地	〒025-0244 岩手県花巻市湯口字松原53番地1		
自己評価作成日	令和元年10月18日	評価結果市町村受理日	令和2年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田畑に囲まれ自然があふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており24時間連絡が取れ、バックアップ体制が取れている。2ユニットで連携も取りやすく、行事や活動を行っている。季節ごとのバスハイク、母体特養でのバイキング食や行事への参加で、生活の楽しみや生活空間の拡大を図っている。利用者の重度化に伴いひとりひとりに合わせた対応を行い、利用者間のいたわり合いや助け合いなどを通して利用者がその人らしく安心して暮らせる場所としての雰囲気作りに努めている。花壇の手入れや野菜作りで収穫を楽しみにしている。利用者は、食事の片づけ等に積極的に参加している。地域との交流は、子供会、ボランティア、防災訓練への地域住民の参加協力を得ている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0370500779-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「おおたに」は、隣接する母体施設である特別養護老人ホームの機能を活用し、緊急時における医療支援体制が整備されている。利用者の健康状態の情報は、毎週特別養護老人ホームの協力医も把握し、利用者急変時には看護職員に相談することや駆けつけて対応できる体制が整っている。また、地域の方々の定期的な来訪がとても多く、子供会・老人クラブ・近隣住民の方々との交流が活発に行われている。子供会は夏と冬に訪問してレクリエーションをしたり、秋の花巻まつりの時には子供神輿も披露している。おやつ作りのボランティアは毎月4～5名訪問し、老人クラブの会員や近隣の方々も年2回花壇の花植えと利用者との交流に訪れている。火災訓練でも地域の方の参加協力が多く、地域との交流や協力関係がしっかりと築かれている事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月6日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム おおたに1丁目

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者は地元の方が多く「住み慣れた地域で安心して暮らせる場所」を理念に掲げ、日々思い考えケアしている。理念を玄関、リビングに張り出し、朝のミーティングで唱和している。	運営理念の下に基本的理念を五つを掲げ、管理者・職員は、朝のミーティングで唱和したり、事務所・ホールなど目に付くところに掲示している。その結果、実践の一例として、否定的な言葉を使わないように意識し、年長者である事をわきまえつつ、馴染みの言葉を使うようにしている。	理念を実践で具現化できるようにするために、理念の一つひとつの項目について職員全員で話し合い、その内容に対する理解を深めるとともに、実践に繋げるための具体的な方法等の検討を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区子供会との交流や老人クラブによる花壇作り、又、ボランティアによるお茶会やお菓子作りを通して地域の方々と話すことを楽しみに交流している。	定期的に地域の方の訪問があり、おやつ作りのボランティアが毎月4~5人訪問し、老人クラブの方々は年2回花壇づくりや利用者との交流を行い、子供会は夏休み・秋祭り・冬休みを利用し年3回交流している。また、食料品を納めている地域の方には、日常的にホームの入り口で利用者の方に言葉がけをさせていただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に広報「共に」を配布したり、施設や認知症についての問い合わせに対して説明を行い、施設見学を受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに会議を開催し、現状報告し、意見をいただいている。会議内容の議事録を基に職員で話し合い実践につなげている。	会議は2か月に1回開催し、地区代表の方が司会進行を務めている。ホームの現況報告の他、各回毎に家族アンケート結果、ヒヤリハット、外部評価結果などテーマを決め報告している。報告後、参加者一人一人から感想を聞くなどして、参加者が意見を言えるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所から参加していただき、現状報告をしている。市役所から介護保険の情報をいただいたり、地域包括支援センターからは介護等に必要意見をいただき、サービスの質の向上につなげている。	市の長寿社会課には3か月毎に事業所の空き状況報告や入居待機者の確認などを行っている。要介護認定調査の際には、他事業所の状況を聴いたりするなどし、相互の連携が図られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを行うため、施設内での学習会には職員全員が学習できる様に日時を変え参加し、利用者の安全を確認しながら、付き添い見守りしている。家族に電話を取り次いでいる。	年1回の身体拘束の研修は隣接特別養護老人ホームの看護師を講師として、今年度はスピーチロック・フィジカルロック・ドラックロックをテーマとして開催した。出席出来なかった職員には資料を回覧し、全員の理解を深めている。帰宅願望が強く夕方に外に出ようとする利用者の方には、一緒に外に出て気分転換を図って戻ってくるなど、工夫しながら対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修会の参加や学習会を開き、日ごろの業務の中で行為だけでなく言葉にも気を付け、虐待につながるように困難事例等話し合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会で得た知識を内部研修会で伝達している。入所時、該当する利用者の家族には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に重要事項説明書を提示し、説明を行っている。制度改正等による内容変更の都度、同意をいただいている。面会時に、家族からの疑問点等を聞き説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内に意見箱を設置している。年1回家族アンケートを記入していただいたり、面会時に意見を出しやすい雰囲気作りを常に心掛けている。いただいた意見はミーティング等で話し合い業務に反映させている。	面会や定期通院介助で家族が事業所に来た折には、利用状況の報告をしながら意見・要望等を聞いている。年1回家族アンケートを郵送で行い、結果を運営推進会議で報告している。家族アンケートで行事参加報告書が見づらいとの意見があり、様式を変更して対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善のアンケートを取り意見や提案を聞いたり、ミーティング等職員から意見を出しやすい場を設けている。	今年度から2ユニット一緒の職員会議を毎月1回開催し、運営に関する意見や課題を出せる機会にしている。入浴支援の方法や、職員勤務状況に合わせた日勤者の出勤時間の見直しなど、職員の意見や提案を運営に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護支援専門員等の資格取得に向け支援している。また、外部研修の参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加、内部研修会は年間計画をたて、担当者を決めて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会、岩手県グループホーム協会、花北ブロックグループホーム定例会に参加し研修している。研修会で他施設の良いところを知り、自施設のケアに反映させている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設を見学していただいたり、家族から以前の様子を聞き取り、入所後は本人の気持ちを受け止めるように、本人の声に耳を傾けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問を行い、家族の気持ちを受けとめ、困っていた点や介護状況を知り、要望を傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が何を希望し、何が必要かを得た情報と状況の中から、本人が安心して利用できるサービスを提供し支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設内で同じ時間を過ごしていく中で、本人が望む暮らし方を知り、喜怒哀楽を共にすることで、個性や力を発揮できるように支援している。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のお知らせや、気分転換していただくために外出や面会を勧め、家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力で、かかりつけ医への通院、外食、ドライブ、自宅への外出、馴染みの理美容院への外出を大切にしている。	馴染みの関係は入居前のアセスメントや入居後の会話の中で把握するように努めている。バスハイクで出かけた際には、昔働いていた会社や実家の前など知っている馴染みの場所を通ったりすることもある。家族の協力でお盆にお墓参りに出掛ける人や、行きつけの理美容院に行く人もいる。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間のコミュニケーションの話題提供やレクリエーションを一緒に行うことで話題ができています。歌声喫茶やゲーム等で一緒に楽しむことができます。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養へ移動した人へ面会したり、行事で会った時には声を掛け、生活していた中での思い出話をしていたりしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や行動、表情から一人ひとりの希望や意向を知り、気づきを職員で検討し、本人の希望に沿った支援している。	日常の支援の中で、会話を通じて利用者一人ひとりの意向を聞き取れるように取り組み、困難な利用者にはその方が好む職員で対応し、会話の他に行動又は表情からも思いを汲み取るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より本人の生活歴や自信をもっているところ等尋ね、本人が満足感や達成感が持てるよう、職員で話し合っている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定や介護日誌、連絡ノートに記録し、職員全員で把握している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース検討により、定期的に職員で話し合い、ケアプランを作成している。本人及び家族に要望や意向を聞きながら、現状にそった意見を出し合い介護計画に反映させている。	介護計画は、居室担当者が毎月のモニタリング結果を基に作成した原案を用いて、3ヵ月毎に開催される会議でケアマネ・出勤職員で協議し作成している。介護計画作成後は、家族に説明し同意を得ている。利用者が急変し状態が変わった場合には、その都度話し合い、ケアを変更し状態が落ち着いてから計画を修正している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌やケース記録、連絡ノートに、その日に得た情報を記載し共有することで、職員同士の連携を図り支援している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により温泉や家への外出を勧めている。家族の状況により、通院介助や物品の購入を代行し、利用者には不安を感じさせないように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おやつ作りやお茶会等のボランティアや地区子供会との交流会、防災訓練に地元の方々の参加をいただいている。家族で対応できない場合は地元の美容院に来ていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医に継続的に通院する際の情報提供や、週1回の母体特養の協力医にバイタル票を提出してiru.	家族が同伴してかかりつけ医に通院する際には、2週間分の体温等の記録と生活の様子記録等を記載した情報提供書を家族に託している。通院結果は家族から報告を受けるが、内容が複雑な際には電話で病院に直接確認することもある。皮膚科など他科を受診する際にも同様の情報提供書を持っていく。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の特養の医務室と連携し、看護師に必要な意見や指示を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、家族と相談し、医療機関に対して本人に関する情報提供を行っている。退院時は、スムーズに施設の生活に移れるように状態確認し、注意点等の対応方法を話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	介護度が重度化してきた場合は家族と相談し、母体の特養への入所を勧めたり、終末期の方の対応を研修し職員で支援内容の確認をしている。	入居契約時に重度化した場合には隣接する特別養護老人ホームへの入所を進める旨を家族に説明し、同意を得ている。自立歩行が困難になり、オムツ使用になった場合など、介護が重度化した場合には、家族と話し合い特別養護老人ホームへの入所手続き等を進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿った研修と実技による技術の確認、習得を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に沿って防災訓練を行い、特養職員や地域の方にも連絡し駆けつけていただけるよう取り組んでいる。食品の備蓄も3日分準備している。H28.12.15土砂災害マニュアル策定される。	定期的訓練として、火災対応訓練を年2回、土砂災害対応訓練を年1回行っている。訓練には近隣住民の方や地元消防団員の方5～10名と、隣接施設職員の参加を得ている。事業所内にはスプリンクラーと消火栓が設置されており、食料は3日分を備蓄している。	消火栓を全職員が使えるよう、消火栓を使った初期消火の実践的な動作訓練の実施を検討することが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の部屋に入る際は、声掛けしノック等行い入室し、利用者の羞恥心に配慮した対応ができているか、言葉遣いには問題がないか、職員間で話し合い自覚を促している。	内部研修で、プライバシー保護について再確認している。入浴脱衣時にカーテンで仕切り、また個人名が記載されている記録類は事務所の引き出し内で管理するなどの対応がなされている。言葉掛けでは否定的な言葉を使わないように意識し、目上の方である事を踏まえつつ方言なども活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合った声かけで意思表示できるように働きかけている。誕生会では好物のメニューやバイキングでは好きな物を選択できるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合った時間の取り方、入浴、食事、行事等の参加以外は、ソファで休まれる人や自室でテレビを見る人等ゆったりと過ごしていただけよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の重度化により、買い物や理美容院への外出は出来なくなってきた。家族の協力で家から季節に合わせて服を持ってきて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチン前に手作りの献立表を張り出し、読み上げたりしながら食事への興味を持っていただく。季節の野菜を育てて利用者と収穫している。苦手な食べ物は調理法や代替えで対応している。屋外昼食を行い、楽しんでいただいている。	献立は隣接特別養護老人ホームのものを基に、担当職員が禁止食や好き嫌いなど嗜好調査の結果を踏まえて作成している。利用者4、5人はモヤシのひげ取りなどを、1、2人はテーブル拭きなどに参加している。隔月で特別養護老人ホームで行う寿司やケーキのバイキングに参加し楽しんでいる。	食事をこれまで以上に楽しみや心身機能維持の活動に繋げていけるようにするために、それぞれの方の能力や関心に合わせて積極的に参加できる場面や方法を工夫していくことを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェック表で摂取量の把握を行い、必要量を摂取していただけるよう働きかけている。むせ込みのある人はゼリー等で摂取していただき、毎月の体重測定を行い状態に合わせてご飯の量でカロリーを調節している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの見守りや声かけ、義歯洗浄、舌ブラッシング介助、口腔内の状態チェックしている。夜間は義歯洗浄剤を使用し、清潔保持している。年1回歯科検診を実施し、口腔ケア学習会で利用者と一緒に染め出しして、正しい歯磨きについて勉強している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い排泄を促している。トイレ誘導により失禁が減り、リハビリパンツから布パンツ使用に変更した人もいる。	水分・排泄・下剤服用状況のチェック表で個々の排泄状況の把握を行っている。現在、トイレ誘導者は2ユニットで7名程で、食前・食後に誘導を行っている。排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握する中で、便失禁が解消した利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便チェックを行い、個々の状態に合わせて水分摂取を勧めている。また、一緒に歩行運動や体操をして排便を促している。医師と相談し下剤の服用を調節している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴であり、入浴での羞恥心等に考慮してタイミングを合わせ、入浴日を変更し、ゆっくりと楽しめる入浴を支援している。また安全面を考慮職員二人体制で入浴している。	入浴は月・火・木・金の週4回で9時～11時過ぎ頃までの時間で行われている。入浴の順番は利用者の状態に合わせて調整している。脱衣所ではカーテンを使用し肌を露出することのないように羞恥心に配慮したり、希望に応じてお湯の温度を調整し個別に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて、自室で休んだり、食堂のソファや畳で休んでいただいている。歩行訓練や散歩等の活動で夜間の安眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は職員が管理し、各自の薬箱を3回に分けて、服薬の際も最後まで確認し(3重チェック)誤薬を防いでいる。ゼリーと一緒に服用し飲み込み易くしている。呑み込みの確認もしている。薬の内容変更はノートを活用し、職員同士で情報共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭き、洗濯たたみ等個々の出来る事を役割として自信を持っていただいている。歌の好きな人が多く歌声喫茶と一緒に歌い、花の好きな人は外に出て花を摘み部屋に飾っている。お菓子等の嗜好品は家族に用意していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じてバスハイクを計画したり、買い物デーを設けてスーパーに行き、お菓子等本人の好みの物を購入している。また、本人の外出希望を家族に伝え、外出を勧めている。特養の行事では知人に会う機会がある。	天気が良い日には、職員の対応状況も考慮しながら、事業所の周りを散歩している。暖かい時にはウッドデッキに出て、花を眺めたり外の空気を吸えるようにして気分転換している。行事の一環として、希望を募りバスハイクや買い物に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食事の都度に支払いたいと財布を持ち歩く人にはその都度支払いがない旨説明したり、本人と話し合い事務所で預かる人には、本人に時々話して確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話を取り次いだり、電話を掛けたいと希望がある時は、本人(代り)から掛けている。手紙は代筆したり、届いた手紙を本人に読み上げています。年賀状は読み上げ手渡している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の飾りつけ(七夕、クリスマス)等と一緒に、行ったり、ボランティアと一緒に作った工芸作品を飾り、くつろげる空間を作っている。一人ひとりの身体状態に合わせた食堂の席を確保している。空気清浄機、クーラー、暖房、加湿器で心地よい環境を調節している。	食堂・居間の共有スペースには食卓や椅子の他に、寛げるようにソファを置いている。隣接してウッドデッキがあり、何時でも外に出れる作りになっている。空調設備として、空気清浄・床暖房・エアコン・空気清浄機・加湿器等を設置している。掃除担当職員もおり、室内に不快な臭いも無く全館清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳で休んだり、新聞を読んだり、洗濯物たたみを一緒に行っている。気の合った利用者同士で天気の良い日はウッドデッキで日光浴を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で、本人の馴染みの物を用意したり、趣味で作った色紙やぬいぐるみを飾っている。自分の湯呑と箸を使用し、家族に自室用のカレンダーを用意していただいている。写真や誕生日カードも飾って馴染みの空間を作っている。	居室には、ベッド・床頭台・椅子・洗面台・クローゼット・収納ボックスを備え付けている。クローゼット内の衣類・介護用品等は整理整頓されており、居室は全般的に清潔感が保たれている。壁には、手作りの飾り物なども飾り付けられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレマークや自室の名札を大きめに作り、戸口に見やすい高さで掲示している。自室のベッドの位置を一人ひとりの状態に合わせ、本人が安全に移動しやすいように配置している。		